2024.11.18　1歳、2歳 「色や感触と出会う」　絵の具、澱粉のり、画用紙、他

～大人の正解を探すのではなく、自分はどうしたいのか～

子ども達と一緒に、絵の具を水に溶かす準備から始めると、興味津々です。
そのまま画用紙と筆のある場所に誘い、何をするとも言わずに始まりました。
最初は戸惑っていますが、筆に絵の具を付けて画面に塗り始めます。
「ぐるぐる」「まぜまぜ」と言いながら、紙上で色が混ざることを楽しみます。
トントン描いている人達は、音を楽しんでいるのでしょうか。
容器に違う色を入れはじめ、「そーっと、そーっと」と言いながら移してます。
容器の中で、色がマーブル状に混ざるのを見つめています。
色を自由に混ぜる事で、無限の色が生まれます。

途中から澱粉のりを出すと、指先で少し触って考え、「やらない」選択をします。
手に塗りたくる人も、その手を見つめて考えています。何を感じているのでしょう。
絵の具とのりを混ぜて、画面に塗っていきす。そのタッチも素敵です。
机の上でのりと絵の具を混ぜ、足や身体全体で感じる人もいます。

絵の具の上にテイッシュを乗せると、染みていく色に気付く人もいます。
それを絞ると絵の具が垂れることを理解し、何度もやっています。
大人の腕に容器で塗り、ヘラで塗り、自分の指で塗っていきます。
何かを考え、確かめている表情です。

笑顔で遊ぶ、というのではなく、真剣な表情です。
通りすがりの先生が思わず「いい目をしているね」と言いっていました。

大人の声掛けを控えたことで、個々が感じる、考える「間（ま）」が保証され、
自分なりの感じ方で、自分の世界に没頭していけたのでしょう。
大人が先回りして答えをを言わない、盛り上げようとしない、止めない、ことで
次は何をしたいのか、それには何が必要か、自分なりに考え、感じています。

やりたい事をやり、時々大人の顔を見ます。そこに見守る眼差しがある事で、
やっていいんだ、とスイッチが入り、安心して探求していきます。
やらせようともしないので、興味ない事には見向きもせず、自分のやりたい事に
没頭していけたのかもしれません。

大人が何を求めているのか、大人の正解を探すのではなく、
自分はどうしたいのか、そこにアクセスしていくのは大事な事です。
成長した時に、自分を主語にして生きていく力につながるはずです。
あなたはどうしたい？と問いかけ、自分で決めた選択を受け止めていくことは
その子を尊重することにも繋がります。

1，2歳の人達は、物や事と出会い、主体的にそれと関わり、起きる事を
インプットしながら、世界を知っていくのでしょう。
そこには、その子なりの興味、感じ方があります。
画用紙の上には、その痕跡が生き生きと表現されています。